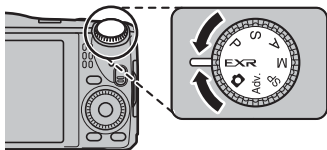
モードを切り換えて撮影する

モードダイヤルで撮影モードを切り換える

撮影モードを切り換えることで、状況（シーン）に適した設定を行うことができます。モードを切り換えるには、モードダイヤルを回して、使用するモードアイコンを指標に合わせます。

■ M、A、S、P
シャッタースピードや絞り値を自分で設定して撮影できます（📖41）。

■ EXR
優先する画質の指標を選んで撮影できます。カメラが撮影シーンに合わせて、自動で最適な状態を設定するオートモードも選べます（📖30）。

■ SP（シーンポジション）
いろいろな撮影シーンに合わせて、カメラの設定を最適な状態にするシーンポジションを選択できます（📖39）。

■ 📷（オート）
カメラまかせの簡単操作できれいな写真が撮影できます。

■ Adv.（アドバンストモード）
高度なテクニックが必要な写真を簡単に撮影できます（📖32）。

EXR（プレミアム EXR オート/EXR 優先モード）

シーンに最適な EXR モードをカメラまかせで設定したい場合や優先する画質の指標を選んで撮影したい場合に使います。
モードダイヤルを EXR に合わせます。表示されるメニューから、使用する EXR モードを選んでください。

EXR AUTO プレミアム EXR オート

カメラが自動で撮影シーンと最適な EXR モードを設定します（📖25）。

- 画像サイズを AUTO に設定すると、記録画像は自動的に適切なサイズで保存されます。
- EXR AUTO では、超解像ズームが 2 倍に制限されます（📖127）。

シーンアイコン

■ シーンアイコン

カメラが認識した最適なシーンのシーンアイコンが表示されます。

被写体＼背景		AUTO	風景	夜景	夜景（三脚）	マクロ	ビーチ	夕焼け	スノー	青空	緑	青空 & 緑
人物以外				*	*							
人物	順光			*	*	—						
	逆光			—	—	—						
動き												
人物 & 動き	順光					—						
	逆光			—	—	—						

*（インテリジェントブレ防止）が表示されたときは、連写撮影を行います。

① シーンによっては認識されたシーンが実際と異なる場合があります。また、撮影条件によっては、同じ被写体でも異なるシーンとして認識される場合があります。認識されたシーンが実際と異なる場合は、撮影モードを（オート）にするか（📖29）、SP にして適切なシーンポジションを選択してください（📖39）。

インテリジェントブレ防止について

が表示されたときは自動的に連写し、1 枚の画像に合成します。撮影時の手ブレを抑え、高感度でもノイズの少ない写真を撮影できます。

は、次のときに有効になります。

- 撮影メニューの設定が **ON** のとき（103、107）
- フラッシュの設定がオートまたは発光禁止のとき（46）

カメラをしっかり構えて撮影してください。

処理に時間がかかる場合があります。

動いている被写体の場合、合成処理に失敗することがあります。

撮影中にカメラを大きく動かした場合や撮影シーンによっては、合成されずに記録されることがあります。

この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。

■ EXR モードアイコン

シャッターボタン半押し時に、優先される EXR モードアイコンが表示されます。

アイコン	説明
HR	**高解像度優先**：被写体の細部までくっきりと撮影されます。
SN	**高感度低ノイズ優先**：高感度で撮影したときに発生するノイズが軽減されます。
DR	**ダイナミックレンジ優先**：白とびを抑え、明るい部分の階調まで撮影されます。

EXR 優先モード

用途に応じて、EXR 優先モードを選びます。

モード	説明
HR **高解像度優先**	被写体の細部までくっきりと撮影したいときに選びます。
SN **高感度低ノイズ優先**	高感度で撮影したときに発生するノイズを軽減したいときに選びます。
DR **ダイナミックレンジ優先**	白とびを抑え、明るい部分の階調まで撮影したいときに選びます。 D-Rng **ダイナミックレンジ**で R1600 **1600%**と R800 **800%**も設定できます（105）。

Adv. アドバンストモード

高度なテクニックが必要な写真を簡単に撮影できます。
モードダイヤルを **Adv.** に合わせます。撮影メニューの **Adv. モード**から、使用するアドバンストモードを選んでください。

ぐるっとパノラマ 360

カメラを動かして撮影した複数の画像を自動で合成し、1 枚のパノラマ写真を作成します。ぐるっとパノラマ 360 モードでは、ズームは広角側に固定されます。

1 撮影する角度（撮影画角）を選びます。

▼ を押して撮影画角変更画面を表示させ、◀ または ▶ で撮影する角度を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

2 撮影方向を選びます。

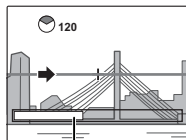
▶ を押して撮影方向選択画面を表示させ、◀ または ▶ で撮影する方向を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始します。

撮影中にシャッターボタンを押し続ける必要はありません。

4 矢印方向にカメラを動かします。

矢印方向にカメラをガイドバーの終端までスムーズに動かすと撮影が終了し、パノラマ写真が保存されます。

- 撮影中にシャッターボタンをもう一度全押しすると、撮影が停止します。
- 撮影された画像が 120 度以下の場合は、パノラマ写真は保存されません。

360 について

撮影画角で 360 を選ぶと、継ぎ目のない 360° のパノラマ写真が撮影できます。360 で撮影したパノラマを再生すると、エンドレスで再生できます（67）。

- セットアップメニューの **処理前画像記録**では、360 のパノラマ写真も同時に記録するように設定できます（128）。

① 撮影シーンによっては、画像がゆがんだり、合成できないことがあります。
① 合成できないときは、360 のパノラマ写真となります。
① 撮影状態によっては、合成後の画像の上下に白い部分ができる場合があります。
① 360 で撮影する場合、撮影画面に表示されている画像の上下の一部は記録されません。

うまく撮影するには

- 一定の速度で小さな円を描くようにカメラを動かします。
- カメラを地面と平行（水平）に構え、ガイドの方向にまっすぐカメラを動かします。
- うまくいかないときは、移動速度を変えてください。

- ① 撮影を中断したタイミングによっては、撮影した最後の部分が記録されないことがあります。
- ① 複数の写真を合成するため、つなぎ目がきれいに記録されない場合があります。
- ① 暗いシーンでは、写真がブレる場合があります。
- ① カメラを動かす速度が速すぎたり、遅すぎたりしたときは、撮影が中断される場合があります。設定した方向と異なる方向にカメラを動かしたときも撮影が中断されます。
- ① 撮影シーンによっては、設定した角度どおりに撮影できない場合があります。
- ① 以下の場合は、ぐるっとパノラマ 360 撮影には適していません。
  - 被写体が動いている
  - 被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空や芝生など、同じような模様が続く風景
  - 明るさが大きく変動するシーン
  - 波や滝など常に模様が変化する風景

ぼかしコントロール

人物や花などの背景をぼかし、被写体を強調して撮影したいときに使用します。シャッターを押すと最大 3 コマ連写し、カメラが自動的にピントを合わせた被写体以外の背景をぼかします。一眼レフカメラで撮影したようなぼけ味のある写真を撮影できます。撮影前に ◀ または ▶ でぼかしの強度を 3 段階から設定できます。

- セットアップメニューの **処理前画像記録**では、**ぼかしコントロール**で処理する前の画像も同時に記録するように設定できます（📖 128）。

- ① 被写体と背景が近づきすぎていると、背景をうまくぼかせないことがあります。フォーカスロック時に「**！背景をぼかせません**」とメッセージが出たときは、被写体から少し離れて、[T]（望遠）側へズームレバーを動かし調整してください。
- ① 動いている被写体の場合、ぼかし処理に失敗することがあります。

- ぼかし処理が失敗すると「**画像を確認してください**」とメッセージが出ます。再度、撮影してください。
- 撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。

連写重ね撮り

暗いシーンや望遠撮影時の止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターを押すと連写し、カメラが自動的に 1 枚の画像に合成します。手ブレを抑え、高感度でもノイズが少ない写真を撮影できます。

- セットアップメニューの **処理前画像記録**では、**連写重ね撮り**で処理する前の画像も同時に記録するように設定できます（128）。

- 動いている被写体の場合、合成処理に失敗することがあります。
- 撮影中にカメラを大きく動かした場合や撮影シーンによっては、合成されずに記録されることがあります。
- 撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。

多重露出

2 枚の画像を重ねて 1 つの画像に合成します。

1 1 枚目の画像を撮影します。

2 **MENU/OK** を押します。

2 枚目の撮影画面が表示されます。

- 1 枚目の画像を撮り直す場合は ◀ を押してください。
- **DISP/BACK** を押すと、1 枚目の画像が保存され、多重露出撮影を終了します。

3 2 枚目の画像を撮影します。

- 1 枚目の画像が撮影画面にうすく表示されているので、その画像を見ながら 2 枚目の画像の位置を調整してください。

4 **MENU/OK** を押します。

2 枚の画像を合成した画像が保存されます。

- 2 枚目の画像を撮り直す場合は ◀ を押してください。

3D2 回撮り

2 回に分けて 2 枚の画像を異なる角度から撮影し、3D 画像にします。

1 ▶ を押して、撮影順を変更します。

2 ◀ または ▶ で被写体の左側と右側のどちらを先に撮影するかを選びます。

- 1 ⟶ 2 のときは、左側を先に撮影します。
- 2 ⟵ 1 のときは、右側を先に撮影します。

3 シャッターボタンを押すと、1 枚目の画像が撮影されます。

◆ 1 枚目撮影後、**DISP/BACK** ボタンを押すと撮影を中止します。

4 シャッターボタンを押すと、2 枚目の画像が撮影されます。

◆ 1 枚目の画像が撮影画面にうすく表示されているので、その画像を見ながら 2 枚目の画像の位置を調整してください。

① 撮影シーンや状況によっては、立体効果が得られないことがあります。

◆ 良い立体感を得るため、1 枚目と 2 枚目の移動距離は、カメラと被写体の距離の 1/30 から 1/50 程度をおすすめします。

▶
◆ 1枚目の画像を撮影したあとに **自動電源OFF**（126）で設定した時間、何も操作をしなかった場合は自動的に電源はオフになります。

◆ 1 枚目の画像を撮影したあとに電源をオフにした場合、1 枚目の画像も保存されません。

3D2 回撮りで撮影した画像の再生 / プリントについて

◆ このカメラでの再生方法

1 コマ再生時に ▼ を押すと、撮影した 2 枚の画像を交互に表示できます。

◆ このカメラ以外での再生について

2D&3D デジタルフォトフレーム「FINEPIX REAL 3D V3」や
3D デジタルカメラ「FINEPIX REAL 3D W3」で 3D 表示できます。

◆ 3D 写真のプリントについて

http://fujifilm.jp/3d/print/ をご覧ください。

◆ パソコンでの表示

- 付属のソフトウェア（📖84）を使うと、アナグリフ方式などで 3D 表示できます。
- MP フォーマット * に対応するアプリケーションで読み込めます。

◆ テレビでの表示

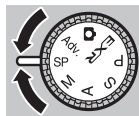
MP フォーマット * 対応の 3DTV で再生できます。詳しくは再生機器の取り扱い説明書をご覧ください。

① 3D 画像は PictBridge や赤外線通信には対応していません。
① 3D 画像はスライドショーや TV 出力では、2D 表示となります。
① 3D 画像はトリミングや回転などの画像加工はできません。

* 「MP フォーマット」に準拠したデータファイルを「MP ファイル」と呼びます。拡張子は“.MPO”です。このカメラで撮影した 3D 静止画は MP ファイルで保存されます。
マルチピクチャーフォーマット（MP フォーマット）：**M**ulti-**P**icture **F**ormat の略で、カメラ映像機器工業会（CIPA）で承認された複数の静止画を記録するためのファイルフォーマットです。

SP シーンポジション

いろいろな撮影シーンに合わせて、カメラの設定を最適な状態にするシーンポジションが用意されています。

モードダイヤルを **SP** に合わせます。撮影メニューの **シーン選択** から、使用するシーンモードを選んでください。

シーン	機能
高感度 2 枚撮り	フラッシュ非発光 / 発光で連続 2 枚撮影します。
ナチュラルフォト	暗い場面でも、目で見たままの雰囲気を活かした自然な写真を撮影します。
人物	人物の撮影に適しています。
美肌	肌をなめらかに撮影します。
ペット検出（いぬ）	犬の撮影に適しています。
ペット検出（ねこ）	猫の撮影に適しています。
風景	昼間の風景撮影に適しています。
スポーツ	動いている被写体の撮影に適しています。
夜景	夕景や夜景の撮影に適しています。
夜景（三脚）	スローシャッターでの夜景撮影に適しています。
花火	スローシャッターで打ち上げ花火を色鮮やかに撮影します。
夕焼け	夕焼けを赤く鮮やかに撮影します。
スノー	白く輝く雪景色での撮影に適しています。
ビーチ	日差しの強い浜辺での撮影に適しています。
水中	水中での撮影を想定し、青かぶりを軽減します。
パーティー	室内での結婚式やパーティーの撮影で使用します。
花の接写	花に近づいて撮影するときに使用します。
TEXT **文字の撮影**	書類やホワイトボードなどを撮影するときに使用します。

ペット検出（いぬ / ねこ）について

を選択すると犬の、を選択すると猫のそれぞれ正面の顔を検出し、ペットの顔にピントの合った写真が撮影できます。また、これらのペット検出モードに設定しているときは、セルフタイマー設定画面（48）で **ペットオートシャッター**を選べます。**ペットオートシャッター**では、カメラが犬または猫の顔を検出すると、自動的に撮影します。

ピクチャーサーチ（64）でそれぞれのモード（**ペット検出（いぬ）**または **ペット検出（ねこ）**）で撮影した画像で検索することができます。

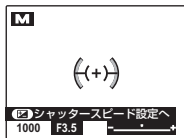
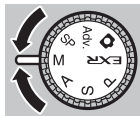
- ペット検出では多くの種類の犬、猫の顔を検出できますが、種類や状態によっては検出ができない場合があります。
- 顔が検出されない場合は、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターの中央にピントが合います。
- 顔が検出できない場合は、被写体を画面中央に置いて撮影してください。
- 検出が苦手な例
  - 顔全体が黒い種類
  - 長い毛で顔が覆われている種類

M マニュアル

M マニュアルでは、シャッタースピードや絞り値も撮影者が設定できます。意図的に「オーバー（明るい)」または「アンダー（暗い)」の露出を設定できるので、個性的で多彩な表現が可能になります。

モードダイヤルを **M** に合わせます。

コマンドダイヤルで絞り値とシャッタースピードを設定します。

✎ （露出補正）ボタンを押すたびに、シャッタースピード設定と絞り設定が切り換わります。

露出インジケーターについて

画面の右下の露出インジケーターを目安に露出を決定します。

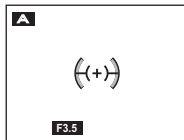
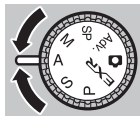
A 絞り優先

A 絞り優先では、絞りを設定できます。設定した絞り値に合わせて、カメラがシャッタースピードを自動的に決定します。

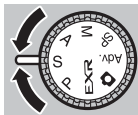
モードダイヤルを **A** に合わせます。

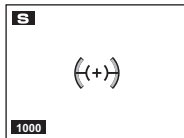
コマンドダイヤルで絞り値を設定します。

① 設定した絞り値で適正な明るさにならないときは、シャッタースピードが赤色で表示されます。その場合は絞り値を設定し直してください。

① 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードが「----」と表示されます。その場合はシャッターボタンを半押しして測光し直してください。

S シャッター優先

S シャッター優先では、自分で選んだシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値を設定します。

モードダイヤルを **S** に合わせます。

コマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

- ① 設定したシャッタースピードで適正な明るさにならないときは、絞り値が赤色で表示されます。その場合はシャッタースピードを設定し直してください。
- ① 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、絞り値が「F---」と表示されます。その場合はシャッターボタンを半押しして測光し直してください。

P プログラム

P プログラムでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。

モードダイヤルを **P** に合わせます。

- ① 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードおよび絞り値が「----」と表示されます。その場合は、シャッターボタンを半押しして測光し直してください。